

巻頭の辞

神戸市民病院紀要第49巻が刊行の運びとなりました。編集委員の皆様、さらには超多忙を極める環境の中で原稿、活動報告をお寄せいただいた全ての皆様方に感謝申し上げます。

過去の紀要を改めて読み返しますと、懐かしいお名前の数々もさることながら、その内容が年々質量ともに深化しているのに驚くとともに、その過程にわずかでも関わった一人として大きな誇りを覚える次第です。この数十年、一地方自治体である神戸市の市民病院群がかくも大きく成長し、先端医療から高度医療、さらには質の高い標準的医療の提供に貢献している現実は、諸先輩達による血のにじむような努力と確実な業績の積み上げ、また人材の養成なしにはありえなかったことを毎巻の紀要は雄弁に物語っています。

医学を含めて科学の進歩は、基礎から応用まで幅広い領域での研究活動の集積によることは言うまでもありませんが、結局は人の幸せを求めての営みにほかなりません。くわえて、医療の最前線での様々な疑問、成功体験が医学医療の進歩への出発点であることを忘れてならないでしょう。医学医療の進歩への貢献、提供する医療レベルの向上とともに、臨床の最前線では医師を含めて、医療人の教育を常に意識する事が求められています。確かに日々の臨床の積み重ねにより経験豊かな医療人は育つでしょう。しかし、臨床医学、基礎医学を俯瞰しつつ、科学的視点からそれぞれの経験をまとめ、新たな知見を言葉として、文章として世に問う事は、医療人にとって必要不可欠な知的営みであると確信しています。これなしにはより高みへの進歩は望めないでしょう。

市民病院群に勤務する人それぞれに与えられた持ち場、役割は異なりますが、いずれもかけがえのないものであり、それぞれの足跡は残したいと思います。それを確認する場の一つとしての神戸市民病院紀要が益々充実することを願ってやみません。皆様方のそれぞれのご健闘を心より期待しております。

神戸市立医療センター 西市民病院

院長 石原享介